

# こうちミュージアム ネットワーク通信

2019

VOL.

17

目 次

## CONTENTS

● 土佐の文化財	P1
中土佐町立美術館 上村昌訓「双名島」	P1
● 隨想「図書館が思うこと」	P2
● NEWS「明治150年を終えて」	P2
● 会員紹介「安田まちなみ交流館・和」「すさきまちかどギャラリー／旧三浦邸」「芸西村筒井美術館・文化資料館」「高知みらい科学館」	P3
● 特集：資料レスキュー「西日本豪雨による被災書籍類の救援活動報告」	P4～5
● 活動報告「廃校利用について」	P6
● 時の話題	P6
「災害と文化財」	P6
● コラム：「リョーマの休日 自然&体験 ネットワークに協力いただきたいこと」「志・とさ学びの日 ネットワークに協力いただきたいこと」	P7
● 会員一覧	P8

## 土佐の文化財



▲上村昌訓「双名島」

久礼湾に浮かぶ双名島は土佐十景にも選ばれた景勝地です。昔むかし、大波に悩んでいた久礼の人々を助けようと、金棒の両端に大きな岩を突き刺し、荒波を乗り越えここまで運んできたという鬼ヶ島の鬼のおかげで双名島ができたそうな。そして昭和24年から5年の歳月をかけて沖の弁天島まで防波堤が作られ、昭和33年には灯台が設置されました。

上村昌訓（1865～1925）は慶應元年現在の宿毛市に生まれ、明治13年に上京して本県出身の画家国沢新九郎が創設した画塾・彰技堂で楠永直枝とともに学びます。

明治20年、帰郷して尋常中学校の助教諭となり、楠永直枝とともに土陽美術会高知支部の会員として洋画振興につとめました。また、小学生用の図画教科書も著すなど美術教育にも尽くし、旧制中学時代の石川寅治を個人指導し、県立第一中学校では山脇信徳も教えています。

現在は当美術館の寄託作品となっている本作は元々、久礼小学校旧校舎の校長室に掛けられており、筆者も小学生の時によく目にしました。海岸道路も防波堤もできていなかった明治45年の自然のままの双名島風景や、バイ貝漁をしている伝馬船の漁夫を、小鎌田の浜から見て明るく写実的に描いています。のどかな海辺の営みを今に伝えてくれる貴重な作品です。

6月6日から9月1日まで、開館30周年記念「時を超えて・土佐の風」展で本作は展示されます。

（中土佐町立美術館 市川雅彦）

◆上村昌訓「双名島」

# 図書館が思うこと

平成三十年七月二十四日、オーテピ

ア高知図書館は開館した。

日本で初めての県と市が共同で運営する図書館として、また、中四国でも最大級の施設面積、収藏能力を持った図書館として、県内外から注目を集めているところである。

当館を語る際に、得てしてその蔵書数や施設規模に目が行きがちであるが、県立図書館と高知市民図書館が所蔵する多くの貴重な資料が一堂に会したこと、実は大いに注目すべきことである。

両館が多くの貴重資料を所蔵していることは、全国的に見ても、大きな特徴の一つと言つてよい。このことは、かつて高知に図書館以外に資料を収集保存する公的機関がなかったことにも由来する。これまでには資料閲覧のため両館の間を行き来しなければならないことが多々あつた。両館の貴重資料やそれらを解説した研究書等を、一ヵ所で閲覧できるようになつたことは、誠に意義深いことである。

また当館では、三階高知資料コーナーに隣接して展示室を設けた。ここで両館の所蔵する貴重資料を展示することにより、一般の方々にも高知をより深く知つていただくなればと考えている。

もちろん貴重資料の利用には、資料の連携企画の展示の様子



連携企画の展示の様子

オーテピア高知図書館  
高知県立図書館

館長 渡辺憲弘

館長 貞廣岳士

た活動として、参加施設には当館との連携を提案したい。

一例として、高知城歴史博物館との事例を挙げておく。同館では昨年秋に企画展「幕末維新 時代の群像展」を開催した。当館では企画展期間中に連コナーを特設し、図書の展示を行つた。図書館は博物館よりも幅広い利用者層を持つため、より広範囲に企画展の情報を届けることができる。一方、企画展に行つた、またはこれから行こ

うという利用者が関連図書を借りれば、当館も貸出冊数の増加という実績が得られる。このように、連携はそれぞれの施設に好影響をもたらすことが可能である。そして、そのことが施設の所在する地域の活性化につながれば、これ以上のことはない。

紹介した事例はあくまで一例であり、連携のあり方は多様であると想定され

る。かつて高知市民図書館が新たな図書館活動を実践していたように、今度はネットワークが新たな文化施設の連携を実践し、発信してもいいのではないか。それはこの組織でこそ可能であるし、その連携先として当館を活用していくだけ幸いである。

## NEWS

### ●「明治150年」を終えて

平成29（2017）年3月から始まつた「志國高知 幕末維新博」が、同31年1月で終わりました。この期間、高知県内における13館の博物館施設は、「明治維新150年 高知県ミュージアム連絡協議会」を結成し、様々な事業を実施しました。

まず、同会が取り組んだ企画は、無料

配布の冊子『幕末維新の土佐探訪図会』（改訂版）と『幕末維新の土佐人物紹介』の作製です。その完成度は極めて高く、「本

當に無料でもらってよいのか」との声も、多々いただきました。また、「高知新聞」へのリレー連載も実施しました。各館スタッフによる幕末維新时期の事象、人物、史跡等の紹介は、それぞれ個性的で、読者の知的好奇心を刺激したことでしょう。

講演活動も、県内外で展開しました。会場は、いわゆる「薩長土肥」の鹿児島、山口、高知、佐賀の各県で、高知県内においては東部、中部、西部に会場を構え、そこに講師となる学芸員を派遣しました。

この事業を経て、各館が連携し、「明治150年」に当たつての多角的な情報発信ができたことは、学術面でも観光面でも、大いに実りがあつたと思います。今後、その成果をさらなる発展につなげたいものです。

## 安田まちなみ交流館・和

安田まちなみ交流館・和は、1913（大正2）年頃建築のレトロな洋風館の旧市川医院と、魚梁瀬の天然木材をふんだんに使った土佐東部の伝統的和風建築の旧柏原邸の両建物が一体となつた、県内でも類をみない和洋折衷の名建築として、当時の名残をとどめています。国登録有形文化財に指定されており、町内外の交流拠点として活動しています。

これまで郷士・高松家や石田英吉、六世竹本土佐太夫等、安田町出身者や安田町に縁のある偉人を題材とした企画展のほか、2017年に認定された日本遺産の構成文化財としてイベント等を開催してきました。

2019年4月からは、安田町旧中山村役場で発見された旧中山村役場文書調査の成果展や安田町出身の画家・西岡瑞穂の生涯にスポット当てた企画展等の開催を予定しており、引き続き安田町の歴史・文化の発展・普及・継承に寄与するとともに、安田町からの全国に向けた文化発信をめざして、さらに魅力的な企画・イベントを開いていきたいと考えております。

（安田まちなみ交流館・和 島田佳香）



## 会員紹介

### 高知みらい科学館



高知市追手筋に平成30年（2018）7月、複合施設「オーテピア」が開館しました。その5階に高知みらい科学館があります。プラネタリウムや、さまざまな科学を楽しめる体験型の展示などがあり、サイエンスショーや科学教室なども行います。子どもから大人まで「見て、触れて、感じて、作って、学び遊ぶ」ことができる科学館です。

高知に40数年ぶりに登場したプラネタリウムは、800万個の星やドーム全体に広がる映像が、星空や宇宙を臨場感たっぷりに楽しむことができます。プラネタリウムの番組は、テーマや構成などを学芸員が考えて制作するため、ここでしか見ることができないオリジナルの番組です。

しかも、開始から終了まで解説員が来場者の反応に合わせながら星空の案内をする生解説で投映しています。4名の解説員がそれぞれ個性を發揮しながら生解説をするため、同じ番組でも解説員ごとに違った楽しみ方ができます。

あなたの琴線に触れることがあります。何度も星たちに会いに来てください！

あなたがお龙さんも過ごした芸西村。ぜひご来館下さい。

（高知みらい科学館 治良真）

須崎の様々な地域資源を活用、情報発信を行い、須崎の魅力を知つてもらうための取り組みのひとつとして、平成22年2月にすさきまちかどギャラリー／旧三浦邸がオープンしました。江戸末期から続く商家として、酒造、米穀業、製紙業、金融など多岐にわたる事業を行い、須崎の町の発展に大きく寄与した三浦家の元邸宅で、大正5年頃（1916年）築といわれる塗屋造りの建物は高知を代表する商家建築と評されており、今も証券会社時代の名残をとどめた事務所と豪奢な造りの母屋がアートとコミュニティのスペースとして活用されています。年間を通じ様々な企画展が催され、地域の作家、伝統文化を取り上げた展示を行つ一方で、現代美術作家を招聘し、滞在制作と交流を通して新たな視点から須崎の魅力を探るためのプロジェクト「現代地方譚」を開催しています。一般的の利用も可能で、市民グループ等の文化活動の場ともなっています。

平成26年、市制施行60周年を記念し、須崎を象徴する文化財として後世に残すべく、大規模な改修工事が行なわれ、登録有形文化財の認定を受けました。

（すさきまちかどギャラリー／旧三浦邸 川鍋達）



## すさきまちかどギャラリー／旧三浦邸



芸西村筒井美術館・文化資料館は役場庁舎の敷地内に有る鉄筋二階建ての建物です。開館した三十年前は全館資料館として出発し、その十年後に筒井広道氏から絵を寄贈して頂き、二階を美術館に改装して現在に至つています。資料館は、昔芸西で農林漁業に使つていた道具・生活用具、古文書などを収蔵し、海援隊士の菅野覚兵衛、安岡金馬の資料と合わせて常設展示を行っています。「バックヤードはオモシロイ」シリーズの企画展は各種興味深い物品を展示し、収蔵庫内の見学も出来ます。美術館では筒井作品を中心として県内作家の作品を収蔵しています。最近、高知市の筒井先生のアトリエの収蔵作品、物品なども展示が可能になり、「里帰り展」として企画展を行つています。企画展は両館交互に行い、地元に根付いた館の利用として、村内のサークルの油絵、水彩画、幼稚園、保育園の各種作品の企画展示も行つています。県下でも珍しいまるで「皿鉢料理」のような展示施設です。坂本龍馬の妻「お龍さん」も過ごした芸西村。ぜひご来館下さい。

（芸西村教育委員会 岡村まさみ）

# 西日本豪雨による被災書籍類の 救援活動報告

# 特集

発災から救援までの経緯

すぐに直接おうかがいし状況を確認したところ、明治から現代にかけての雑誌や洋装本などの蔵書類が泥水にぬれ、一部にはカビが発生していることも確認できました。一刻も早く乾燥させカビを除去しなければ、本は開くことができなくなつてしまふ状況でした。



### 軒先に並べられた水損図書

7月上旬 高知県内の寺院を通じて  
大乗寺の被災状況をお聞きしました。  
近くを流れる川が氾濫し、境内まで浸  
水、堂宇の一部は床上浸水したという  
ことでした。各地の寺院を含め関係者  
で救援作業、必要物資の運搬をしてい  
るもの、濡れてしまつた蔵書類の処  
置にまで手が回らず、大変困っている  
とのことでした。

昨年7月、記録的大雨によつて、西日本の広範囲で河川の氾濫や土砂崩れといった被害が発生しました。とくに大きな被害をうけた地域のひとつが愛媛県宇和島市吉田町です。吉田町には、四国で唯一、臨済宗の僧堂（雲水と呼ばれる修行僧が集団で生活し修行する場）をもつ大乗寺が現在も法灯を守り継いでいます。高知県立歴史民俗資料館は平成29年度に開催した特別展「今を生きる禪文化」で御寺宝を借用し

しかし、宇和島市内は断水が続き、境内の建物や庭、宇和島市指定となっている歴代藩主の墓所などにも浸水による被害が発生しており、蔵書類の乾燥や整理に人手を割ける状況では到底ありません。なんとか高知から援助はできないかと模索が始まります。いくつかの課題がありました。

当初は、最初にお話を受けた当館が中心となることも考えられました。しかし、今回の救援対象は文化財というより寺院が保管する蔵書、すなわち個人の持ち物です。しかも場所は愛媛県。まずは愛媛県での救援活動が行えないか、愛媛県内の文化施設に問い合わせました。しかし、愛媛県内では多くの文化財、図書資料などが被災しており、人的にも精神的にも限界とのお返事でした。そこで、愛媛県の文化施設などで構成する「愛媛資料ネット」から、こうちミュージアムネットワークへ本件についての救援依頼を出してもらうこととしました。これにより当館だけでなく、高知県内の複数の文化施設や関係者が関わる救援体制が整いました。また



書庫の本棚の一段目まで浸水。関係者の方々が泥のふき取り作業をすすめていた

費用については、輸送費、資材費などは愛媛資料ネットが支払うこととなりましたが、愛媛資料ネットも潤沢な資金があるわけではありません。支援を申し出てくれたのは、阪神淡路大震災を機に設立され、被災地における歴史資料の救援活動を行っている「歴史資料ネット」でした。歴史資料ネットでは、発災直後からホームページ上で募金活動を開始し、西日本豪雨で被災した各県を支援することを表明していました。今回の救援活動において、この資金面での課題が早い段階でクリアになつたことは、非常に大きな後押しになつたと思ひます。

次にどこで保管し乾燥やカビの除去作業を行うか。これについては、高知大学の松島教授のご協力で大学の一室を提供いただくことができました。しかし夏休み期間中のみという条件付き。限られた期間でできる最大の処置を行なうという目標がたてられました。

7月下旬、蔵書が高知大学へ運び込まれました。被災から3週間ほど経過してからの輸送でしたが、多くの蔵書がまだ濡れている状態でしたので、まず乾燥させることから始めました。結果として、搬送した書籍のうち半分以上上の書籍については、また本として活用できる状態、つまり開いて読めるという最低限の状態にまで回復させることができました。被災前の状態には戻せなくとも、10月上旬に行つた返却の際に所蔵者に喜んでいただけることは、本当にうれしいことでした。

この救援活動では、初動の段階で愛媛資料ネットと当ネットワークが連絡をとりながら、迅速に組織の意思決定ができたこと、また夏休み中の大学という作業スペースが確保できたことが多くの書籍を救いだす点で大きかったと思います。来たるべき南海ト

## 保存処置の手順と内容

今回対象となつた大乗寺の水損資料は、近現代の図書類を中心<sup>ミカン</sup>に48箱（一部写真・アルバム類含む）にのぼります。これらは、8月3日に大乗寺から高知大学に運び込んだ時点です。まだ泥水を含んでおり、カビの発生やペーパー同士の固着等が進行していまし

そこで、まず輸送後に行つたのが図書の乾燥作業でした。函やカバーを外し本が変形しないように注意しながら立てて置き、ページを開いた状態で、除湿機や扇風機を用いて約一ヶ月間自然乾燥を行いました。

またその間には、今後の処置方法や作業計画の検討を行うとともに、限られた作業期間内に効率よく作業を進める必要があつたため、図書の水損レベルに応じて3つのグループに選別を行いました。選別基準は次のとおりです。

(A) 固着・汚損等がひどく処置不可能な図書。(B) 固着・汚損等がみられるが処置により回復可能な図書。(C) 固着・損傷等が極めて軽微な図書。その結果、全体の4分1程度の図書が処置不可能と判断され、その多くは図録や写真集等、塗工紙が用いられた図書で

ラフ地震はもちろんのこと、いつどこで起ころかわからない局地的な災害対応に向け、いざというときに頼れる、相談できる県の枠組みを超えた人と人とのつながりが重要なのだと考えさせられました。

した。これらは所蔵者の了解を得て、処置を施さず現状のまま返却することとした。

以上の準備期間の後、9月5日から本格的な保存作業がはじまりました。作業員の募集は、当ネットワーク会員に呼びかけ、計7日間の作業で延べ約60名の参加をいただきました。

保存作業は、泥やカビを可能な限り除去し、図書として今後の利用に耐えられる状態まで回復することを目標に具体的には次の手順で行いました。

### ①カビと泥の除去

カビは刷毛や歯ブラシ等で除去し、泥は刷毛の他に竹べらや紙製のウエス等を用いて除去しました。特にカビの胞子は、除去の際に室内に飛散し、作業員の健康を害する恐れがあるため、簡易の空気清浄機付きドライクリーニングボックスを用いて行いました。

### ②ページ同士の固着の展開

多くの図書はページ同士の固着がみられたため、竹べらを用いて1枚ずつ展開していきました。一部固着が強く展開が困難な部分は、無理に剥がすことはせず、現状維持としました。

### ③カビ痕の拭き取りと殺菌処置

70%のエタノール水溶液をキツチン



乾燥中の水損図書



保存処置作業の様子



付着した泥の除去



固着したページの展開

ペーパー等に含ませ、カビ痕に対しても消臭を目的に拭き取りを行いました。またカビがひどく発生していた図書に対しては、霧吹きを用いて全体に散布しました。

以上の手順により、作業対象の多くが図書としての機能を回復することができ、本文の内容を読みとることが可能になりました。

一方、インクの滲みや固着がみられた写真・アルバム類は、処置に人手と時間がかかると判断し、受け入れ後に高知城歴史博物館の冷凍庫で一時保管をすることとしました。現在は、高知大学で芸術資格取得を目指す学生らの協力も得ながら、来年度前半の返却を目標に保存処置を進めています。

水損資料の保存作業は、当ネットワークとして初の取り組みであり、処置の方法を巡っては試行錯誤の連続でした。今回、被災地各地で行われている水損資料の救援活動に協力できたことの意義は大きく、作業で得た技術や経験は、今後高知県内で起りうる災害時の対応にも活かされると考えています。

## 水損資料のクリーニング作業に 参加して

(高知県立高知城歴史博物館 田井東浩)

(田井東浩)

大学の一角に用意された現場は、水損書籍類がコンテナに丁寧に仕分けされ、

身一つでいつでも作業できるよう、マスク、手袋など作業道具一式もそろえられ、作業空間は、担当の方、大学側のご配慮で不自由がないよう準備されています。

県内各地から集まつた方々の大半は、当ネットワークの会員の方だったと思いま

ますが、監視員や事務方、民間の修復家の方もいらっしゃいました。勤務として

参加、オフの日を利用して、など立場は様々でしたが、皆さん共通の思いで参加されていましたと 思います。この作業は、い

前被災資料に、自分たちの施設、つながりのある方々の所有する資料を重ねて見ていましたことと思います。

こびりついた泥はへらなどで削り落とし、ペーパーでぬぐつたり、貼付いた頁を竹串などで一頁ずつはがし開いていきます。濡れ乾いたコート紙は完全にくつ

ついてはがれないし、逆に和紙はくつついでいません。今回は乾式にとどめる作業でしたのが、たとえ水洗としても、しみ込んだ泥は簡単にはとれません。泥つけて、拭いても拭いても湧き出てくることを思い出したり、和紙に墨書きの資料は最強よねー、という声になるほどねと、実感したり。

作業場は目に見えない細かな土ぼこりが舞い、カビも浮遊しているかもしれません。作業者の健康の為にも一時間ごとに外の新鮮な空気を吸うように、と指示されていましたが、集中し始めると時間が平気ですぎていて、気づいた人の声がけで、急いで休憩に入ったり繰り返し。それでも時におしゃべりをしながら、和気あいあいと作業はすすめられました。

今回の資料は、重要度も様々であつたと思います。汚損が激しくページもめくれない図録、おそらく一般図書で再入手が可能なもの、もしかしたら、こうして作業した資料の中には、最終的には所蔵者のご判断で処分となるものもあるかもしれません。それらひつくるめて混在しているのが被災資料です。被災資料とはそうしたものだと思います。この経験は、被災資料のレスキューワークの訓練とともに、何を残し、どう取り扱つて行くのか、資料のトリアージについても、日頃から思考を巡らせておかなくてはいけないと感じます。

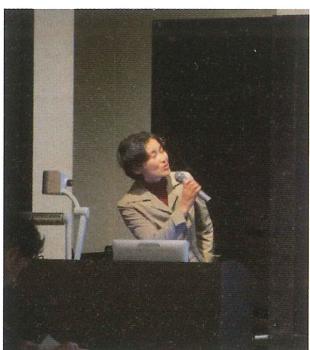
災害時には、このネットワークを中心とし、多様なケースの文化財レスキューワークを控える私たちは、こういう作業も含めて、お互いの顔が見えるつながりの機会を重ねておくことも大切なのはないかと感じたこのたびの作業でした。

(元高知県立美術館 影山千夏)

# こうちミュージアムネットワーク研修会 廃校利用について



天草アーカイブズ 橋本氏



戸隠地質化石博物館 中村氏

少子化とともに、小中学校などの中華人民共和国との共同利用も実施している。統廃合が進んだ結果、山村部を中心全国的に廃校が増加し、その利活用が活発に議論されている。高知県内での博物館施設による廃校利用については、すでにいくつのかの取り組みがみられる。近年では特に、平成30年4月26日に旧室戸市立椎名小学校を活用した「むろと廃校水族館」が開館。県内外で脚光を浴び、改めて廃校の利活用が注目を集めている。

そこで、本年度の研修会では、他県の廃校利活用の事例として、天草市立天草アーカイブズの橋本竜輝氏と、長野市立博物館分館戸隠地質化石博物館の中村千賀氏を招き、それぞれの現状と課題などを伺った。

まず、橋本氏のお話である。公文書館である天草アーカイブズでは天草市内4つの廃校を行政文書などの書庫として活用していると。以上、廃校利用に止まらず、県移管した上で、選別して保管するという方針であり、それらの保管場所として廃校が利用されている。また、単なる保管場所というだけでなく、地域住民との一時利用な

ど民間との共同利用も実施している。課題としては、施設環境の整備や、市内に散在しているため移動距離などが挙げられるとした。次に、中村氏のお話である。自然史系の戸隠地質化石博物館は2008年に廃校となった旧柵木小学校を利用してオープニングしたという。市民が収蔵資料の整理に参加するなど、資料と親しみ、その魅力を発見してもらう場作りを目指すミドルヤード構想を理念に掲げた博物館運営を行っている。

廃校利用の利点としては、耐震基準をクリアしているというハーフ面に加え、話題性やコアなファンの獲得につながるというソフト面の利点も挙げる。

課題としては、老朽化やアクセスの悪さに加え、外観が学校にしか見えないなどが挙げられるとした。

以上、廃校利用に止まらず、県外の公文書館や博物館の現況・工夫・課題などを聞くことができ、収穫の多い研修会となつた。

(高知県立歴史民俗資料館 石畠匡基)

・民間との共同利用も実施している。

・課題としては、施設環境の整備や、市内に散在しているため移動距離などが挙げられるとした。

・次に、中村氏のお話である。自然史系の戸隠地質化石博物館は2008年に廃校となった旧柵木小学校を利用してオープニングしたという。市民が収蔵資料の整理に参加するなど、資料と親しみ、その魅力を発見してもらう場作りを目指すミドルヤード構想を理念に掲げた博物館運営を行っている。

・廃校利用の利点としては、耐震基準をクリアしているというハーフ面に加え、話題性やコアなファンの獲得につながるというソフト面の利点も挙げる。

・課題としては、老朽化やアクセ

スの悪さに加え、外観が学校にしか見えないなどが挙げられるとした。

以上、廃校利用に止まらず、県外の公文書館や博物館の現況・工夫・課題などを聞くことができ、収穫の多い研修会となつた。

(高知県立歴史民俗資料館 石畠匡基)

## 【企画調整部会】

・情報交換会

- ①「高知みらい科学館について」岡田直樹(高知みらい科学館)
- ②「むろと廃校水族館－廃校を利用活動」若月元樹(むろと廃校水族館館長)
- ③「廃校利用した資料保管活動」谷地森秀二(認定NPO法人四国自然史料学研究センター)

- ④「日本遺産認定 魚梁瀬森林鉄道」中村茂生(特定非営利活動法人 地域文化資源ネットワーク)

- ・研修会「廃校利用について」1月21日 橋本竜輝(天草市立天草アーカイブズ) 中村千賀(長野市立博物館分館戸隠地質化石博物館)
- ・見学会「オーテピア高知図書館・高知みらい科学館」9月10日
- ・「こうちミュージアムネットワーク専門的職員名簿2018」作成
- ・ホームページの更新

- ・高知小津高等学校SSH事業への協力
- ・高知市広報「あかるいまち」コラム「歴史万華鏡」リレー連載

平成30(2018)年度活動報告



## 「災害と文化財」

### ・文化財保存修復学会第40回高知大会 公開シンポジウム

6月15日(金)、文化財保存修復学会第40回高知大会の関連行事として、公開シンポジウム「南海トラフ地震に向けた文化財の防災・減災－四国4県の取り組みから考える－」が高知城歴史博物館で開催された。当ネットワークは共催として携わり、当日は全国から会員のほか、高知県の学芸員ら80名が参加し、活発な議論が交わされた。

冒頭の特別講演では、地震地質学者の岡村真氏(高知大学名誉教授)が、最新研究をもとに南海トラフ地震の仕組みや被害想定について講演を行った。

その後、四国4県の防災・減災の現在の取り組みについて、御厨義道氏(香川県立ミュージアム)、町田哲氏(鳴門教育大学)、胡光氏(愛媛大学)、筆者が報告し、討論を行った。各県とも活動の中心は大学や博物館など様々で、特徴ある取り組みを行っている。文化財を取り巻く現状が各県で異なる中、いかに体制を整え、活動を行ってきたのか。その過程や課題を参加者らは共有でき、今後の他の地域での活動に大いに参考になつたのではないかと思つ。

シンポジウムの3日後、大阪北部地震が、7月に西日本豪雨が発生し、今なお被災資料の保存作業が続く。今回の議論が今後の活動に少しでも活かされることを期待したい。

(高知県立高知城歴史博物館 田井東浩平)

## 【新入会員】(平成30年4月～平成31年3月)

【志・とさ学びの日】関連検討委員会  
・平成30年10月23日

【志・とさ学びの日】関連検討委員会  
・平成30年4月～平成31年3月)  
・すさまじかぎやラリー／旧三浦邸



シンポジウムの3日後、大阪北部地震が、7月に西日本豪雨が発生し、今なお被災資料の保存作業が続く。今回の議論が今後の活動に少しでも活かされることを期待したい。

(高知県立高知城歴史博物館 田井東浩平)

コラム

# リヨーマの休日 ～自然＆体験キャンペーン～

2年間にわたって開催した「志国高知幕末維新博」が閉幕しました。博覧会の会場には334万人を超える方々にご来場いただき、本県への県外からの観光客数も2年連続で440万人台を達成するなど多くの誘客につなげることができました。博覧会を契機に将来に向けての歴史を中心とした観光基盤の底上げにも一定つながったものと考えていますし、歴史資源の磨き上げが進んだことは、県民の皆様にとっても大きな意味があつたと受け止めていきます。ご協力いただいた方々に心からお礼を申し上げます。

さて、その維新博閉幕の翌日となります2月1日には、新しい観光キャンペーン「リヨーマの休日～自然&体験キャンペーン～」がスタートしました。このキャンペーんは、北に峻険な四国山地、南に雄大な太平洋を抱き、その間には多くの清流が流れれる本県独特の地勢が生み出した自然そのものや、自然が育んだ様々な恵み、そして、さらにはそうした高知の地が生み出したとも言える歴史や文化・伝統など、様々な本県の魅力を体験していただき、明日へのパ

ワードをチャージする旅を楽しんでいただこうというものです。

予定している2020年12月末までのキャンペーん期間を通して、自然景観、体験などを前に出しながら、これまで磨き上げてきた歴史や食で、しっかりと両脇を固めて国内外からの誘客を図ろうと考えています。本県の観光面での強みを余すこと無く生かして本県の観光基盤をさらに強化するとともに、対象となる資源が多くある中山間地域の振興や、美しい自然や地域の伝統、文化などによるインバウンド観光の促進を目指した展開を行っていきます。

このため、維新博で磨き上げた歴史などの観光資源も、引き続き大変重要な観光資源としてプロモーションやセールス活動を実施していくことになります。来県していただいた方には、歴史を含めた高知ならではの様々な魅力を体験していただくよう取り組んでいきます。歴史観光のパートナーとして、ミュージアムネットワークの皆様には今後も引き続きご協力をよろしくお願ひいたします。

(高知県観光政策課長) 辻和生

コラム

**志・とさ学びの日  
ネットワークに協力**

これまで、「志・とさ学びの日」では、県民が本県教育の現状について知り、考えるきっかけをつくるための広報や啓発活動・関連行事を推進してまいりましたが、平成30年度は、明治維新150年を迎えたことを機に、子どもたちが幕末維新时期に活躍した土佐の先人から、時代の先を見通した物の見方や考え方を学ぶことを通じて、日本や高知の未来を切り拓く人材の育成を図る「明治150年記念人材育成プラン」を実施いたしました。

県教育委員会では、11月1日を高知県教育の日「志・とさ学びの日」としております。これは、すべての県民が教育について理解と関心を深め、高い志を持つ子どもたちを育み、ともに学びあう意識を高めることも、一人ひとりが学ぶ目的や喜びを自覚し、生涯にわたって学び続ける風土をつくりあげていくことが必要であることから、平成22年に開催された全国生涯学習フオーラム高知大会での「教育宣言」に基づき、制定しているものです。

高知 幕末維新博の会場や地域の史跡等にに向いて学習し、郷土の先人の功績や考え方、生き方を学ぶ「ファイードワーク」に取り組むとともに、地域学習を通じて「志・目的を持つた生き方」を考える学習を行いました。また、薩長肥3県の高校生と本県の高校生が坂本龍馬をテーマに交流し協働学習を行う「薩長土肥4県交流ファイードワーク」にも取り組みました。そして、11月11日に「次世代の「志」応援フォーラム」を開催し、これらの学習成果の発表を行つたところです。

今後、「志・とさ学びの日」の取組についてはさらにステップアップを図り、広く県民全体の生涯学習につながる取組が必要であると考えております。このため、平成31年度については、是非、こうちミエージアムネットワーク様と連携して、文化を鍵とした「学びの世界」を県民の皆さんに提供する試みができればと考えております。ご支援・ご協力の程、よろしくお願ひ申し上げます。

(高知県教育政策課長　酒井啓至)

●こうちミュージアムネットワーク 会員一覧●

(団体会員のみ)

名 称	〒	住 所	電 話	FAX	HP	休
安芸市立書道美術館	784-0042	安芸市土居 953-1イ	0887-34-1613	0887-34-1613	×	月(祝日開館)※
安芸市立歴史民俗資料館	784-0042	安芸市土居 953-1イ	0887-34-3706	0887-34-3706	○	月(祝日開館)※
いの町紙の博物館	781-2103	吾川郡いの町幸田110-1	088-893-0886	088-893-0887	○	月(祝日の場合は翌日)※
いの町立吾北中央公民館	781-2401	吾川郡いの町上八川甲2010	088-867-2133	088-867-2773	×	日祝※
絵金蔵	781-5310	香南市赤岡町 538	0887-57-7117	0887-57-7117	○	月(祝日の場合は翌日)※
大方あかつき館(上林暁文学館)	789-1931	幡多郡黒潮町入野 6931-3	0880-43-2110	0880-43-0222	○	木祝・月末金※
オーテピア高知図書館	780-0842	高知市追手筋 2丁目 1-1	088-823-4946	088-823-9352	○	月(祝日開館)、第1金(朝11日(山の日)を含む旧間)
越知町立横倉山自然の森博物館	781-1303	高岡郡越知町越知丙 737-12	0889-26-1060	0889-26-0620	○	月(祝日の場合は翌日)※
海洋堂かっぱ館	786-0322	高岡郡四万十町打井川 1685-1	0880-29-3678	0880-29-3679	○	火(祝日の場合は翌日)※
海洋堂ホビー館四万十	786-0322	高岡郡四万十町打井川 1458-1	0880-29-3355	0880-29-3356	○	火(祝日の場合は翌日)※
香美市立美術館	782-0041	香美市土佐山田町 262-1 ブラザ八王子 2F	0887-53-5110	0887-53-5498	○	月(祝日の場合は翌日)※
香美市立やなせたかし記念館	781-4212	香美市香北町美良布 1224-2	0887-59-2300	0887-57-1410	○	火(祝日の場合は翌日)※
香美市立吉井勇記念館	781-4247	香美市香北町猪野々 514	0887-58-2220	0887-57-5995	○	火(祝日の場合は翌日)※
キラメッセ室戸鯨館	781-6833	室戸市吉良川町丙 890-11	0887-25-3377	0887-24-5000	○	月(祝日の場合は翌日)※
芸西村文化資料館・筒井美術館	781-5701	安芸郡芸西村和食甲 1262	0887-33-2400	0887-32-2014	○	月(祝日開館)※
高知県文化財団	781-8123	高知市高須 353-2 高知県立美術館内	088-866-8013	088-866-8008	○	土日祝※
高知県文化振興課	780-8570	高知市丸ノ内 1-2-20	088-823-9790	088-823-9296	○	土日祝※
高知県立足摺海洋館	787-0450	土佐清水市三崎字今芝 4032	0880-85-0635	0880-85-0650	○	12月第3木
高知県立高知城歴史博物館	780-0842	高知市追手筋 2-7-5	088-871-1600	088-871-1619	○	※
高知県立坂本龍馬記念館	781-0262	高知市浦戸城山 830	088-841-0001	088-841-0015	○	無休
高知県立大学総合情報センター図書館	780-8515	高知市永国寺町 2-22	088-821-7129	088-821-7130	○	日祝・第1水※
高知県立のいち動物公園	781-5233	香南市野市町大谷 738	0887-56-3500	0887-56-3723	○	月(祝日の場合は翌日)※
高知県立美術館	781-8123	高知市高須 353-2	088-866-8000	088-866-8008	○	※
高知県立文学館	780-0850	高知市丸ノ内 1-1-20	088-822-0231	088-871-7857	○	※
高知県立埋蔵文化財センター	783-0006	南国市篠原 1437-1	088-864-0671	088-864-1423	○	土・展示期間以外の日祝※
高知県立牧野植物園	781-8125	高知市五台山 4200-6	088-882-2601	088-882-8635	○	※
高知県立歴史民俗資料館	783-0044	南国市岡豊町八幡 1099-1	088-862-2211	088-862-2110	○	※
高知市生涯学習課	780-8529	高知市九反田 2-1 かるぽーと 8F	088-821-9215	088-821-9217	○	日月祝※
高知市春野郷土資料館	781-0304	高知市春野町西分 340	088-894-2805	088-894-2812	○	月祝・毎月(8月を除く)第3金※
高知市民権・文化財課	780-8010	高知市桟橋通 4 丁目 14-3	088-832-7277	088-831-3378	○	月(祝日の場合は翌日)※
高知城	780-0850	高知市丸ノ内 1 丁目 2-1	088-824-5701	088-824-9931	○	※
高知市立自由民権記念館	780-8010	高知市桟橋通 4 丁目 14-3	088-831-3336	088-831-3306	○	月(祝日の場合は翌日)※
高知市立龍馬の生まれたまち記念館	780-0901	高知市上町 2 丁目 6-33	088-820-1115	088-822-1835	○	無休
高知みらい科学館	780-0842	高知市追手筋 2 丁目 1-1 オーテピア 5F	088-823-7767	088-824-8224	○	月(祝日開館)※
香南市文化財センター	781-5453	香南市香我美町山北 1553-1	0887-54-2296	0887-54-2433	○	土日祝(第4日曜は開館)※
古溪城	786-0002	高岡郡四万十町見付 665	0880-22-1654		×	事前申込
子どものための民具体験館	780-0861	高知市升形 5-29	088-822-1764	088-822-1843	×	事前申込
金剛頂寺靈宝館	781-7108	室戸市元乙 523	0887-23-0026	0887-23-0726	×	事前申込
佐川町立佐川地質館	789-1201	高岡郡佐川町甲 360	0889-22-5500	0889-22-5511	○	月(祝日の場合は翌日)※
佐川町立青山文庫	789-1201	高岡郡佐川町甲 1453-1	0889-22-0348	0889-20-9009	○	月(祝日の場合は翌日)※
四国自然史科学研究センター	785-0023	須崎市下分乙 470-1 新荘公民館内	0889-40-0840	0889-40-0840	○	土日祝※
四万十市立郷土資料館	787-0000	四万十市中村 2356 為松公園内	0880-35-4096	0880-35-4096	○	水
四万十町立美術館	786-0004	高岡郡四万十町茂串町 9-20	0880-22-5000	0880-22-5001	×	月祝※
定福寺宝物館	789-0167	長岡郡大豊町栗生 158	0887-74-0301	0887-74-0302	○	※
ジョン万次郎資料館	787-0337	土佐清水市養老 303	0880-82-3155	0880-82-3156	○	無休
宿毛市立図書館	788-0001	宿毛市中央 2-7-14	0880-63-2654	0880-63-0155	○	月祝※
宿毛市立宿毛歴史館	788-0001	宿毛市中央 2-7-14	0880-63-5496	0880-63-1319	○	月(祝日の場合は翌日)※
須崎市立図書館	785-0013	須崎市西古市町 6-15	0889-42-2141	0889-42-2141	×	月祝※
すさき まちかどギャラリー／旧三浦邸	785-0004	須崎市青木町 1-16	050-8803-8668	0889-42-2141	○	月(祝日の場合は翌日)※
創造広場「アクトランド」	781-5233	香南市野市町大谷 928-1	0887-56-1501	0887-56-1506	○	無休
竹林寺宝物館	781-8125	高知市五台山 3577	088-882-3085	088-884-9893	○	無休
津野町立図書館かわうそ館	785-0202	高岡郡津野町姫野々 433-2	0889-55-3001	0889-55-3555	○	火祝・第4金※
津野町立図書館虎太郎館	785-0501	高岡郡津野町力石 2870	0889-62-3555	0889-62-3555	○	火祝・第4金※
特定非営利活動法人 黒潮実感センター	788-0343	幡多郡大月町柏島 625	0880-62-8022	0880-62-8023	○	土日(10~6月)・月(7~9月)
特定非営利活動法人 地域文化資源ネットワーク	781-5102	高知市大津甲 562-1-303	080-6721-3074		○	
土佐市立市民図書館	781-1101	土佐市高岡町甲 2177	088-852-3333	088-852-3484	○	月祝・月末金※
土佐農永万葉植物園	789-0167	長岡郡大豊町栗生 158	0887-74-0301	0887-74-0302	○	※
豊永郷民俗資料館	789-0167	長岡郡大豊町栗生 158	0887-74-0305	0887-74-0302	×	※
中岡慎太郎館	781-6449	安芸郡北川村柏木 140	0887-38-8600	0887-38-8601	○	火(祝日の場合は翌日)※
中土佐町立美術館	789-1301	高岡郡中土佐町久礼 6584-1	0889-52-4444	0889-52-2343	○	月(祝日の場合は翌日)
中村時計博物館	783-0011	南国市後免町 1 丁目 5-26	088-864-2458	088-864-5249	○	無休(日祝は要確認)
日本ウミガメ協議会 室戸研究基地	781-7101	室戸市室戸岬町 701	0887-22-1685	0887-22-1685	○	不定休
認定特定非営利活動法人 高知こどもの図書館	780-0844	高知市永国寺町 6-16	088-820-8250	088-820-8251	○	火木※
平和資料館草の家	780-0861	高知市升形 9-11	088-875-1275	088-821-0586	○	水日祝
民間非営利団体 高知文化財研究所	782-0016	香美市土佐山田町山田 1645	0887-52-0736	0887-52-0736	×	
室戸ジオパーク推進協議会	781-7101	室戸市室戸岬町 1810-2 室戸世界ジオパークセンター内	0887-22-5161	0887-23-1618	○	無休
安田まちなみ交流館・和	781-6421	安芸郡安田町安田 1674-1	0887-38-3047		○	火(祝日の場合は翌日)※
横山隆一記念まんが館	780-8529	高知市九反田 2-1 かるぽーと内	088-883-5029	088-883-5049	○	月(祝日開館)※
龍河洞博物館	782-0005	香美市土佐山田町逆川 1434	0887-53-4376	0887-53-2145	○	無休
藁工ミュージアム	780-0074	高知市南金田 28 アートゾーン藁工倉庫	088-879-6800	088-879-6800	○	火(祝日の場合は翌日)展示替え期間中※
わんぱーくこうちアニマルランド	780-8010	高知市桟橋通 6 丁目 9-1	088-832-0189	088-834-0929	○	水(祝日の場合は翌日)※

こうちミュージアムネットワーク通信 第17号 平成31(2019)年3月31日発行

■編 集 こうちミュージアムネットワーク幹事館

■事務局 高知県立高知城歴史博物館 ■電話 088-871-1600

■http://moak.jp/network/konet\_home.html